

iCONMコラム⑭

くし型のmRNAワクチンの話 ～身体に悪さをする細胞の除去～

新型コロナウイルスの世界的流行で速やかな対策が求められる中、“mRNAワクチン”という人類史上初めて接種される**予防ワクチン**が注目を集めました。mRNAワクチンについては、iCONMコラム⑦(2022年8月号)でも記しましたが、ウイルス表面にあるスパイクタンパクというトゲトゲを認識して中和する「抗体」をたくさん体内で産生し、ウイルスを排除する仕様のものでした。しかし、「抗体」は、ウイルスやタンパク質のような小さな異物に対して効果があるものの、既に感染してしまった細胞やがん細胞など大型の異物(身体が排除したいもの)には効果がありません。

iCONMの内田智士・主幹研究員(東京医科歯科大学教授)のグループは、mRNAを二重らせん構造でくし形に配列させることで、がん細胞を除去できる**治療ワクチン**を開発し、マウスの悪性黒色腫モデルにて、その有効性を実証しました。その成果は、2023年7月10日付 米国科学アカデミー紀要(PNAS)電子版で公開されました。

<https://doi.org/10.1073/pnas.2214320120>

<お問合せ先>

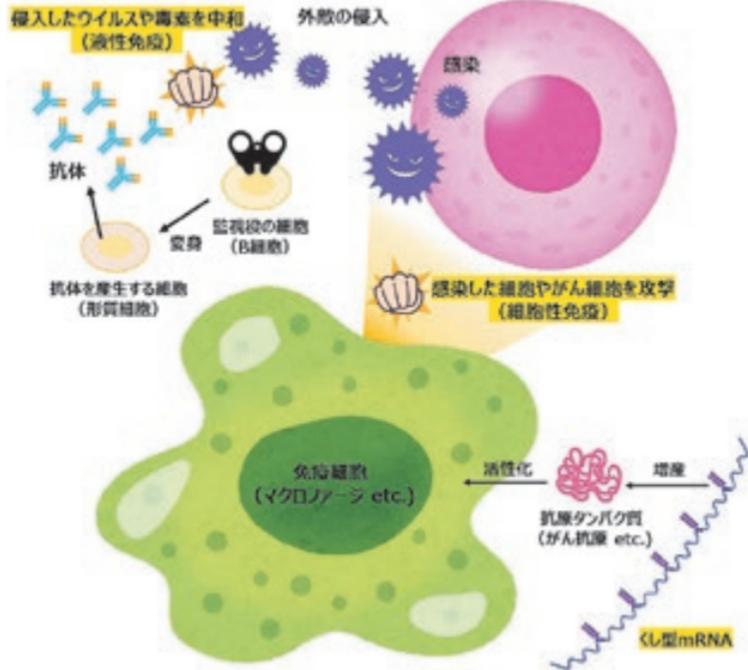
公益財団法人 川崎市産業振興財団

ナノ医療イノベーションセンター

TEL : 044-589-5700

iCONM

検索



監修：内田智士・iCONM 主幹研究員
(東京医科歯科大学教授)

積極的に情報発信中！
今すぐアクセス！

HP



YouTube



X (旧Twitter)

